

## EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ 2023 のご案内

日本植物病理学会令和 5 年度 EBC(Evidence-based Control)研究会のワークショップを下記のとおりで開催します。今回は大人数の講義形式ではありません。パソコンを持参していただいた参加者の皆様に、講師が事前に準備したデータやご自分の試験研究で得られたデータを入力していただき、実際に各種統計解析を体験していただく形式にしています。ワークショップ終了時点で、各種解析を自由自在に使いこなせるようになっていただくことが目的です。実のあるワークショップとなるように、参加人数を 30 人までとさせていただきます。また、本ワークショップ名物の情報交換会を久しぶりに催します。ご自分の試験研究のデータ解析に悩まれている方、もっと統計解析のスキルを向上させたい方など、やる気のある皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

○日 時 2023 年 9 月 11 日(月)13 時 ~ 9 月 12 日(火)12 時 30 分

○場 所 東京農業大学 厚木キャンパス 講義棟 1204 教室 (神奈川県厚木市船子 1737)

○参加申し込み

8 月 1 日(火)10 時からインターネット(Forms)で受付を開始します。受付の URL は <https://forms.office.com/r/P0Nknyrh2z> です。解析したいご自身の研究データをお持ちの方の中から先着順とさせていただきます。申込時に解析したいご自身の研究データの概要をご記入下さい。Forms は受付であり参加の確定ではありません。参加確定は記載いただいた連絡先(E-mail)宛に後日お知らせします。



受付の QR コード

申込開始時刻をしばらく過ぎた後に URL が閉鎖されている場合は受付終了とご理解ください。

○定員 30 名参加費 (参加費は無料、宿泊場所はご自身でのご準備をお願いします。)

○プログラム

9 月 11 日(月)

13:00 開会

13:00~14:50 「圃場での研究に役立つ基本的な 6 つの検定手法」

岩館康哉氏 【岩手県農業研究センター】 / 池田健太郎氏 【法政大学生命科学部】

圃場で研究を行う際に、取り扱うデータの種類や解析に用いる検定方法は、実は限られています。ここでは実験計画や研究デザインをふまえて、どのようなデータの時にどの検定方法を使うのか、EZR を使って一緒に検定してみます。

15:00~16:50 「圃場試験の結果を解析する際に役立つ検定の話」

岩館康哉氏 【岩手県農業研究センター】

解析に役に立つ基本的な内容を紹介します。標準偏差 (SD) と標準誤差 (SE)、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分け、複数試験の統合評価 (メタアナリシス)、生存時間解析 (カプランマイヤー法) など、一緒に作業して理解を深めます。

18:30~20:00 — 情報交換会 — (参加は任意です。参加費は別途徴収します。)

9 月 12 日(火)

9:00~10:50 「一般化線形モデルおよび一般化線形混合モデルによる複数回の圃場試験データの解析」

池田健太郎氏 【法政大学生命科学部】

複数回の試験によって得られたデータを一般化線形モデルなど解析することで、その防除効果の大きさ(エフェクトサイズ)を定量的に知ることができます。ここでは、発病株割合を例にして、得られたデータから解析結果の解釈まで、一緒に取り組みます。

11:00~12:00 「演習成果発表」ワークショップ参加者数名

12:00~12:30 総合討論 池田健太郎氏 【法政大学生命科学部】 / 岩館康哉氏 【岩手県農業研究センター】

12:30 閉会

○お問合せ:ワークショップ事務局 茨城県農業総合センター園芸研究所 小河原孝司 (togawara@pref.ibaraki.lg.jp)